

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 〒760-8582
香川県高松市天神前6番1号
管理機関名 香川県教育委員会
代表者名 工代 祐司

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月10日（契約締結日）～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 香川県立高松北高等学校
学校長名 國木 健司
類型 グローカル型

3 研究開発名

グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成

4 研究開発概要

芸術やスポーツの分野をはじめとする地域の課題の解消に向けた地域デザインの構想力・提言力を育み、生徒自らが主体的に地域と連携しながら地域活性化実現の原動力となるとともに、グローバルな視野を持ち多文化共生の地域社会を創造する地域創生リーダーを育成する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
堀井 秀之	東京大学名誉教授 (一社) 日本社会イノベーション	学識経験者及びイノベーション教育に専門知識を有する者

(別紙様式3)

	センター 代表	
村川 雅弘	甲南女子大学人間科学部・教授	学識経験者及びカリキュラム・マネジメントに関して専門知識を有する者
西成 典久	香川大学経済学部・教授	学識経験者及び地域連携に関して専門知識を有する者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
香川県教育委員会	教育長 工代 祐司
香川県立高松北高等学校	校長 國木 健司
香川県立高松工芸高等学校 (連携校)	校長 塩崎 潤
香川大学創造工学部	教授 末永 慶寛
高松市総務局危機管理課	課長 三木 浩史
創造都市推進局文化・観光・スポーツ部観光交流課	課長 黒田 秀幸
穴吹学園 穴吹ビジネスカレッジ	校長 篠原 達司
(株) 人生は上々だ (スクルトが社名変更)	代表 村上 護郎

8 カリキュラム開発等専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	喜多野裕介	名鉄観光サービス (株) 高松支店長	委嘱 謝礼なし
海外交流アドバイザー	大本 耕造	(株) JTB高松支店・営業第一課長	委嘱 謝礼なし
海外交流アドバイザー	阿吹 隆広	(株) JTB高松支店・営業第一課長代理	委嘱 謝礼なし
海外交流アドバイザー	曾我部友仁	(株) 日本旅行高松支店・営業課長	委嘱 謝礼なし
海外交流アドバイザー	南出 准	(株) アイエスエイ関西支社・法人営業部担当	委嘱 謝礼なし
地域協働学習支援員	村上 護郎	(株) 人生は上々だ・代表	委嘱 都度謝礼にて対応
地域協働学習支援員	吉川 賢司	(株) 人生は上々だ・アカウントエグゼクティブ	委嘱 都度謝礼にて対応

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
コンソーシアム			→										
海外交流アドバイザー	→												
地域協働学習支援員	→												
運営指導委員会				→				→			→		

(2) 実績の証明

①運営指導委員会の活動日程・活動内容

(別紙様式3)

活動日程	活動内容
令和2年7月31日 (第1回)	高松北高等学校を視察(1, 2年生の総合的な探究(学習)の時間)及び第1回会合(今年度の事業の進め方についての助言)
令和2年11月20日 (第2回)	高松北高等学校を視察(2年生中間報告会)及び第2回の会合(探究活動充実についての助言)
令和3年2月12日 (第3回)	高松北高等学校を視察(1年生成果発表会)及び第2回の会合(探究活動充実や今年度の課題についての助言)

②コンソーシアムの活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年7月31日 (第1回)	第1回運営協議会 ・2年目の研究開発実施計画等協議。研究開発推進方針等決定
令和2年10月23日 (第2回)	第2回運営協議会 ・1年生中間報告会の審査及び生徒への指導・助言 ・分野別の担当教員とのグループ協議及び指導・助言 ・研究の現状や課題, 今後の研究方針等について全体協議
令和2年11月20日 (第3回)	第3回運営協議会 ・2年生中間報告会の審査及び生徒への指導・助言 ・研究の現状や課題, 今後の研究方針等について全体協議
令和3年2月12日 (第4回)	第4回運営協議会 ・1年生成果発表会の審査及び生徒への指導・助言 ・今年度の研究のまとめ, 来年度の研究開発について全体協議

③海外交流アドバイザーの活動実績

活動日程	所属・氏名	活動内容
令和2年4月16日	(株)アイエス エイ 南出氏	・海外研修の見通しに関する指導助言 ・海外研修の代替研修に関する指導助言
令和2年7月13日	日本旅行 曾我 部氏	・北欧及びオーストラリア研修中止に伴う国内研修に関する指導助言
令和2年7月29日	(株)アイエスエ イ 南出氏	・海外研修にかわるグローバル研修の有り方について指導助言
令和2年9月4日	JTB 阿吹氏	・韓国・台湾研修中止に伴う両国高校生とのオンライン交流の可能性に関する指導助言
令和2年10月12日	JTB 阿吹氏	・台湾における姉妹校縁組に関する指導助言
令和2年11月16日	JTB 阿吹氏	・韓国・台湾高校生とのオンライン交流に関する指導助言
令和3年2月16日	JTB 阿吹氏	・韓国・台湾高校生とのオンライン交流の実施方法等に関する指導助言

④地域協働学習支援員の活動実績

日程	内容
令和2年7月31日	第1回運営協議会 ・実施計画及び研究開発推進方針等について協議し, 今後研究開発

(別紙様式3)

	への支援方針や方法等を決定
令和2年10月2日	1年生「総合的な探究の時間」における指導・助言 ・各グループに対し協働学習の進め方を具体的に指導
令和2年10月15日	1, 2年生の「総合的な探究の時間」の取組みに関する協議 ・協働学習の在り方などについて指導・助言
令和2年10月23日	第2回運営協議会 ・芸術分野担当教員に対し協働学習の進め方を指導 ・協働の現状や課題, 今後の協働の進め方について指導
令和2年11月13日	プレゼン力育成のための協働に関する指導・助言
令和2年11月20日	第3回運営協議会 ・協働学習の進め方を生徒に直接指導・助言 ・研究の現状や課題, 今後の研究方針等について全体協議
令和3年2月12日	第4回運営協議会 ・1年生成果発表会で探究内容やプレゼンについて指導 ・研究の現状や課題, 来年度の研究方針等について全体協議

⑤管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・県内の全県立高校に全校生徒の3分の1の台数のタブレット端末を配備したが、高松北高校においては、併設の高松北中学校分を合わせると、県下で一番多くの端末を配備した。
- ・指定校での探究活動の高度化につなげるため、併設中学校での探究活動やグローバル関係の行事に対する予算措置を行った。
- ・推進校の成果を広く県内の高校への普及させるため、3月6日に第2回香川県高校生探究発表会を開催した。指定校の教員が取組みの成果の発表をするとともに、指定校の代表5グループ（県下で最大数）が発表を行い、各県立高校から1名以上の教員が参加したことから、県立高校全体として、探究的な学びの推進につながった。
- ・指定校の取組みは、令和元年度から開始している「県立高校魅力化推進事業」に位置付けている。この事業を充実させることで、指定校の自走を助けるとともに、成果を普及させ、横展開をしていく計画である。
- ・指定校が、4つの関係機関と協定書を締結又は締結予定である。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程（月別実施回数）

実施項目	学年	実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」における地域探究学習	1	0	0	4	4	※①	3	4	3	3	3	3	2
	2	0	0	4	4	※①	3	4	3	3	3	3	2
	3	※②	※②	2	1	※③	※③	※③	※④	※④	※④	※④	
教科情報における探究活動	1	0	0	0	0	0	3	2	3	3	2	0	0

※①：探究班ごとの現地研修等

※②：自宅学習中に企画書作成又は実践活動

※③：探究成果をもとに進路探究活動

※④：進路決定後に提言・実践活動

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・生徒が実社会・実生活の中でグローバル化に伴い課題となっていると考えるテーマ又は今後の更なるグローバル化に伴い地域の振興に寄与できると考える次の5分野に関するテーマを設定させた。【グローバル化 芸術 スポーツ 防災・環境 看護・医療・福祉】
- ・海外研修はすべて中止。グローバル事業の基本となるグローバルな感性や英語コミュニケーション力を身に付けさせるため、県内での外国人との交流会や研修会、米国大学生とのオンラインでの交流、英語コミュニケーション能力の強化を図る外国語授業の充実に取り組んだ。今後は、韓国・台湾の高校生とのオンラインでの交流も実施していく予定。
- ・全ての教科の授業担当者が可能な範囲で地域に関連した内容を取り扱うよう工夫した。
- ・同様に全ての教科において、グループによる対話的かつ探究的な学習の機会を取り入れ、その成果をスピーチ又はプレゼンしていく授業を実践した。
- ・総合的な探究の時間においては、各教科・科目等において育成を図ったグローバルな感性や視点、対話力、表現力を総合的・統一的に活用しながら探究する力を育成することとした。次年度は、コンソーシアム等において、これら各教科・科目で身に付けた見方・考え方を、生徒自らが探究の過程で横断的・統一的に活用できているかを評価・検証したい。
- ・探究テーマが確定するまでの間、1, 2学年ともにコンソーシアムの構成団体や5分野に関連する関係機関の専門家を招いた講演会を開催するとともに、1学年については県内の関係機関と連携した現地研修を夏季休業中に9カ所で行った。この研修はテーマを設定する上で大いに参考になるとともに、体感力や探究意欲の向上にも大きく貢献した。
- ・現地調査の計画・実施に際しては、地域協働学習実施支援員やコンソーシアム構成員からも具体的な指導を受けながら、各分野の指導担当教員が指導・助言を行った。
- ・情報の収集活動とその整理・分析に関しては、あらかじめ教科「情報」及び数学Ⅰの各単元において基本的な実施方法を指導し、前者の授業ではそれぞれの班別に設定したテーマに関する情報収集や情報の整理・分析を行った。
- ・2学年では、総合的な探究の時間における探究活動は文系・理系コースの枠を外した文理混合型となるよう分野別の活動に転換し、各分野の探究班が相互に意見交換や質疑応答を行うなど対話型・協働型の探究活動を推進した。
- ・中間報告会及び成果発表会においては、コンソーシアム構成員による審査と指導助言を行うとともに、コンソーシアムにおいて作成したルーブリックをもとに評価を行った。なお、運営協議会ではコンソーシアム構成員が分野別指導担当教員に対し個別に指導・助言を行う分科会も設けたため、校内の指導体制の充実に役立った。
- ・なお、3学年は臨時休業の長期化に伴い探究のまとめの時間が確保できず、自主的な探究活動を進めた上で学校再開後の6月に校内での発表会を行うに留まった。提言・実践に繋がった生徒は少ないが、校内のバリアフリー化実現のための製品を制作した班や観光パンフレット、外国人向け防災ガイドブックを作成した者など、優れた実践例もある。
- ・本校では提言・実践までを求めた研究開発を行っているため、プレゼン力育成の取組みや新たなビジネスプラン作成研修の重要性がコンソーシアムで指摘された。そのため、プレゼン力育成研修を1年生全員と2年生の希望者を対象に、中小企業庁や県政策課等の支援や指導を受ける起業家教育を両学年の希望者対象に実施した。後者に参加した生徒はのべ130人であり、テーマ設定の具体化や探究内容の深化に役立った。

(別紙様式3)

- ・ 1, 2学年の各分野別の地域課題研究内容は以下のとおりである。

【グローバル分野の探究】

1年生は17班79名, 2年生は12班51名の生徒が探究課題を設定した。観光振興など地域活性化をテーマにしたものが多く, 中には外国人移住者を増やすための取組みや空き家・廃校の活用をテーマにした班もある。外国人留学生や技能実習生, 国際交流員との交流活動や観光地での外国人インタビュー等を通してグローバルな感性と視野を身に付けさせた。地元特産品の庵治石を使った作品作りなど提言から実践に着手した班もあり, 地元商工会等との協定書締結につなげていくことができるものとなった。

【芸術及びスポーツ分野の探究】

芸術分野は1年生が8班40名, 2年生が6班28名, スポーツ分野は1年生が10班47名, 2年生は14班66名が探究課題を設定した。芸術分野では瀬戸内国際芸術祭の舞台となった島々や伝統的町並み, 芸術関連施設等, スポーツ分野ではスポーツ施設や地元のスポーツチーム, 県教委等での現地研修を行った。各種イベントの活性化や新企画を立案する探究班が多く, 関係機関と長期間連携しながら探究する班も多い。

【防災・環境分野の探究】

1年生は10班46名, 2年生は9班48名が探究課題を設定した。防災対策やゴミ問題をテーマにした探究班が多い。香川大学創造工学部での体験型防災研修や地域の防災センター, 消防署等でのヒアリング, 避難経路のフィールドワーク等を各班が自主的に行って情報を収集し, 安心・安全な生活環境を整えるための方策等について探究している。

【看護・医療・福祉分野の探究】

1年生は6班28名, 2年生は8班30名が探究課題を設定したが, 外国人のための医療制度の整備や糖尿病対策, 離島医療の整備, 高齢者福祉等地域特有の課題をテーマにした班が多い。香川大学医学部や県血液センター, 離島の診療所等における現地研修やフィールドワークを行い, 安心・安全な生活環境を整えるための方策等について探究を行った。

- ②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間, 学校設定教科・科目等)

- ・ 「総合的な探究の時間」(各学年1単位)及び1学年の履修教科情報「社会と情報」2単位のうちの1単位を研究開発のための情報収集や整理, まとめ, 成果発表の時間に充てた。教科情報については昨年度と同様, 2単位のうちの1単位を研究開発のための情報収集・整理・まとめの時間に充てることとし, 内容(2)及び(4)の指導時間を研究開発に充てた。
- ・ 全ての教科において授業担当者が教科・科目の特徴や指導内容に応じた地域学習や探究学習・対話型学習を実施するよう工夫した。地域学習は, 1年次は7教科12単元, 2年次は7教科20単元で実施し, 地域の社会人特別講師を理科, 家庭科で招聘し探究学習を深めさせた。探究型学習・対話型学習は1年次が8教科20単元, 2年次も8教科25単元で実施し, 総合的な探究の時間での統合化に繋げていくこととした。
- ・ 学校外での探究活動のうち, 年間35時間以上の活動実績がある者について, 学修外の成果の単位として認めるための教育課程の調査研究を行ったが, 臨時休業や外出自粛の長期化, 長期休業期間の短縮に伴い, 認定制度の導入に対する反対意見が強く断念した。
- ・ 「総合的な探究の時間」(各学年1単位)及び1学年の履修教科情報「社会と情報」2単位のうちの1単位を合わせて新たに学校設定教科「探究」を設定する研究を行ったが, 研究開発校指定期間が残り1年間となることや新課程実施を控え策定した指導計画も1年

(別紙様式3)

限りとなること、新大学入試制度対応も考慮する必要があることの理由で、令和4年度以降の新課程での実施を想定し来年度さらに検討を進めることとした。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・各学年団や各教科会において、②で述べた各教科・科目での地域学習、探究的学習・対話的学習の取組みによって育成を図ることとした資質・能力を、総合的な探究の時間において総合的・統合的に活用することに全校を挙げて取り組むことを周知徹底し実践した。
- ・特に併設する高松北中学校時代に推進してきた対話的な学びを発展させることができるよう、各教科・科目での探究的・対話的な授業実践には積極的に取り組むこととした。
- ・外国人との積極的なコミュニケーションが図れるよう総合的な探究の時間において多様な外国人との交流の場を設けるとともに、外国語の各科目の指導における英語によるプレゼン力やコミュニケーション能力の育成を一層推進した。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

校長・教頭・主幹教諭・教諭6名からなるグローバル委員会が中心となり、外部関係機関と連携しながら、年間スケジュールの調整、進捗管理等を行うとともに、必要に応じてカリキュラム等の変更・追加・改善についての研究を行っている。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

グローバル委員会の下、主幹教諭・学年主任等により構成される探究委員会を中心に、「総合的な探究の時間」の年間実施計画作成や現地研修の計画・指導等を行い、計画的な研究開発に努めた。また、今年度から各教科・科目と総合的な探究の時間の教科等横断的な取組みを充実させることとしたため、各教科会も研究開発で大きな役割を果たすことになり、全校的な研究体制は一層充実した。

また、コンソーシアムの運営協議会では新たに分科会を設け、指導担当教員への具体的な指導や支援を行う体制を充実させた。さらに、地域協働推進連携校である高松工芸高校との連携も一層進めており、普通科高校には難しいビジネスプランの企画・実践では、同校教員や生徒から本校生徒への直接指導や合同研究も実現した。

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

- ・海外交流アドバイザーは、当初本校が実施を計画していた海外研修旅行について、その企画段階における指導・助言を予定し、学校長が委嘱し無報酬で担当していた。予定していた海外研修がすべて中止となったため、オンラインによる交流の企画や現地との調整役を依頼した。
- ・地域協働学習実施支援員は、学校の依頼を受け運営協議会での一員として地域の課題や探究活動に関する指導・助言を行うほか、中間報告会や成果発表会での審査や講評、総合の時間内での探究活動の具体的アドバイス等を行った。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・コンソーシアムでは、3年間を見通した研究開発計画や年間指導計画の作成、進捗管理、課題の解決方法などについて協議や調整を行いながら研究開発を進めているほか、各探究分野ごとの進捗管理や探究成果の検証・評価については、コンソーシアム関係者に加

(別紙様式3)

え、探究活動に際して連携する関係機関の専門家からも指導・助言を受けている。

- ・定期的にグローバル委員会を開催し、研究開発計画の調整、進捗管理、評価方法等についての検討を行っており、今年度大きく進展した教科横断的な研究やルーブリックによる評価、ICT機器を活用した情報収集など、研究開発の推進や深化に貢献した。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・4回の運営協議会において、全体計画の策定や進捗管理、計画の変更・修正を行うとともに、プレゼン力育成の取組みや評価方法の工夫など新たな取組みも進めるなど、研究開発全般に関わった。
- ・専門的な見地から各探究分野の指導担当教員や生徒に対しても講評や指導・助言を行ったり、新たに連携・協力すべき関係機関の提言も行った。
- ・地域協働推進連携校である高松工芸高校の教員は、年度当初に探究活動の意義や方法について1年生全員に講演会を行うとともに、探究活動中においても同校教員が本校生徒に直接指導を行ったり、両校生徒間が協働しながら研究を進めるなど連携が進展した。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

- ・3回の運営指導委員会において、全国の研究開発状況や地域課題の設定方法、探究活動の実施要領、大学での実践事例などの研究開発に役立つ指導・助言をいただいた。
- ・基本的に開催日を成果発表会に設定しているため、個々のグループの探究活動に関する指導・助言が多くなる。コンソーシアムの取組や学校の体制など、高所・大所からの指導や支援が得られるよう検討したい。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

【グローバル研修】

ア) 海外の大学生等とのオンライン交流（希望者対象）

交流相手	日程	対象者	人数	概要
米国大学生	令和2年12月6日	2年	13名	地域紹介・地域課題等のディスカッション

イ) 県内の外国人との交流研修

交流相手	日程	対象者	人数	概要
オイスカ研修生	令和2年8月5日	1年	21名	6か国からの研修生と交流
県内留学生	令和2年11月7日	1・2年	21名	19か国からの留学生等と交流
県国際交流員	令和2年11月18日	1年	40名	3か国の交流員とのディスカッション
穴吹学園留学生	令和2年12月8日	2年	38名	7か国の留学生との交流

【国内課題探究研修】

- ・分野別県内研修：1年生全員を対象に、8月に5分野計10か所の関係機関と連携し、地域課題研修実施。香川県や香川大学に加え、運動公園や民間企業へのヒアリングも実施。
- ・東北防災・環境研修旅行：11月，1，2年生希望者30名対象に、東日本大震災被災地で防災対策や復興事業、環境再生プロジェクト等を研修。探究の深化に大きく貢献した。
- ・豊岡芸術・環境研修：芸術を中心に地域振興に取り組む兵庫県豊岡市を訪問し、市の取組みや専門職大学の設置、こうのとりの再生の取組みなどを探究。
- ・防災まち歩き For 高松北高校：香川大学創造工学部長谷川教授と香川大学生の指導のもと、江戸時代の地震被災地を巡る研修会開催。1，2年生15名が参加。

(別紙様式3)

⑪成果の普及方法・実績について

1, 2年生ともに、専門家を招いた講演会や成果発表会の様子、現地での研修やヒアリングの様子等について、学校のウェブサイトで公表したほか、地域と連携したイベントやボランティア活動についても可能な限り報道提供を行った。各学年の関係者や他校の担当者等への公開・普及については次のとおりである。

1年生：中間報告会(10月実施)において全ての探究班が発表を行い、地域協働学習実施支援員やコンソーシアム構成員からの指導・助言を受けた。3月の県教育委員会主催で開催された「香川県高校生探究発表会」において、5分野の代表者が発表を行い、県内の生徒や学校関係者への普及を図った。

2年生：中間発表会を11月に実施し、コンソーシアム関係者からの指導助言を得て、探究成果や諸課題等についての理解と共有を深めた。令和3年1月に実施した「全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」で出場したグループが銀賞を受賞した。また、県教育委員会主催の「香川県高校生探究発表会」でも同グループが発表を行い、県内の生徒や学校関係者への普及を図った。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

海外研修や海外留学生の招聘ができなかったため、国内のグローバル研修や交流会で1か国以上の国の外国人と交流した生徒数は、平成30年度の約150人から、今年度は約200人と微増にとどまるが、3か国以上の国の外国人と交流した生徒数は、平成30年度の約0人から、今年度は約80人と大幅に増加した。これらの生徒は「体感力」や「対話力」を高め、グローバルな視点を持ちながら地域課題の解決方策を探究し、提言・実行のための具体策の考案に生かしている。CEFRA 2レベル以上の生徒数をH29年度の207人から300人以上に、B1レベル以上の生徒数を64人から100人以上にするという目標は、前者が237人、後者が75人と微増に留まっている。外国人との交流や海外研修の縮小・中止により英語コミュニケーション意欲の減退が明らかであり、本校が目指す体感力育成面での課題となっている。

成果としては、生徒が経験を積むごとに現地研修やフィールドワーク等を積極的に企画・実施する姿勢が身に付いてきたことが挙げられる。ヒアリングやインタビューなどの現地調査や探究活動に協力いただいた機関は、1, 2年生合わせて県市関係機関が27機関、観光地などの観光関係団体が15団体、民間企業や病院等が82団体に上る。現地研修のルーブリック評価では、事前準備、相手とのコミュニケーション、課題達成度、班への貢献度の4項目について4段階評価を行ったが、1年生の全平均が2.9であるのに対し、2年生は3.1となっており、さらなる探究意欲も大きく向上している。体感力の向上が探究力や対話力の向上につながっていることがわかる。中間発表についても態度やスライド準備、内容、チームワークなど5項目を評価したが、1年生の3.1に対し2年生は3.3に向上した。このようなルーブリック評価を導入できたことにより生徒の自己評価の分析が容易になった点も成果にあげられる。

審査員による他者評価では2年生の場合全平均が2.6となっており自己評価との差が大きい。他者評価については、課題設定理由、探究方法、プレゼンテーション能力等についての力不足も指摘されたが、昨年度以上に情報収集活動の不十分さが指摘された。今年度からスマホやタブレット等を用いて電話やメールによるヒアリングやアンケートも実施したが、情報不足となった点は否めない。

(別紙様式3)

継続的な外部人材の活用に関しては、1, 2学年で行った分野別講演会において依頼した講師に対し、その後の探究活動で連絡を取り合い、個別に指導を受けたグループも少なくない。今年度中に継続して連携をしてきた機関や個人の数は、合計38機関・個人であり、目標とした20機関・個人を大きく上回った。どの分野でも、高校生のインタビューやフィールドワークに熱心にご協力いただいております、このような連携の成果が4つの機関との協定書の締結につながった。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

1年目の反省を踏まえて、各教科・科目での取組みの強化や起業家教育の導入、スケジュールの見直しなど研究開発計画を一部の見直し・改善を行った。2年間探究を進めてきた2年生の意欲や資質・能力の向上は明確に認められるようになったが、探究班ごとのレベルの差が大きく探究活動が行き詰った班も散見される。残り1年間の探究活動計画の設定から実行、まとめまで一層のきめ細かい指導が求められる。1年生については上級生の実績や取組みを踏まえ実施計画等についてグローバル委員会で検討し、可能な範囲で探究活動がより効率的に進められるよう見直しを行った。地域創生に係る分野別講演会や関係機関での現地研修も定着し、連携する機関の数も大幅に増加したが、一時的な指導・連携に留まらない継続的かつ安定的な連携体制を確立していく必要がある。そのためにも、学年をまたぐ中長期的な探究テーマの設定や探究活動の推進が不可欠となる。あくまで自由なテーマ設定を基本としているが、学年を越えた探究活動にも取り組みたいと考えている。

情報収集や整理・分析活動に不可欠なタブレット端末や無線LAN設備等の整備も進んだが、数量的にも時間的にも制約があったため、今後これらの機器を有効に活用した情報収集や情報発信等の計画・実践までを含めた研究開発にも取り組む必要がある。

今年度開始した起業家教育としてのビジネスプラン策定の研修会については、地域課題解決の意欲を高め、探究内容を深化させるうえで役立つものと考えているが、全体計画の中での位置付けや経費の問題、どの分野の生徒に取り組みせるか等、検討すべき課題も多い。

さらに、2, 3年生の中には提言・実践に繋げて関係機関から高い評価を得た班もあったが、来年度は2年生の全探究班にその目標を持って取り組みさせる必要がある。そのための関係機関との連携体制の一層の充実と各班の探究活動の深化に向けた指導体制の充実も求められる。この点もコンソーシアムにおける研究課題として取り組みたい。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	087-832-3750
氏名	上枝美紀子	FAX	087-806-0232
職名	主任指導主事	e-mail	ac6319@pref.kagawa.lg.jp